

IX 結 論

大腸絨毛状腫瘍の臨床病理学および病理組織学的解析，組織形態計測による異型度の数値化，そして増殖細胞の頻度と分布の検討から，その良性悪性組織診断基準および癌組織発生についての検討を行った．その結論は次のごとくである．すなわち，

- ① 絨毛状腫瘍は特殊な腫瘍ではなく，絨毛状構造は悪性上皮性腫瘍の一つの構造異型であると見做された．
- ② 絨毛状腫瘍は大腸の腺腫・腺癌の集まりの中で，主として粘膜内進展を示す細胞異型度の比較的弱い高分化腺癌と位置づけることができる．
- ③ 絨毛状腫瘍の癌化率は高いとされているが，組織発生的にそれははじめから悪性腫瘍であり，de novo に発生する腺癌であると見做された．
- ④ 生検組織上で絨毛状構造がみられた場合には，悪性を強く疑って対処すべきである．

本研究の内容の一部は以下の学会で発表した．

伴 慎一，齊藤 澄，石堂達也，大倉康男，中村恭一：形態計測による大腸絨毛状腫瘍の悪性度の検討．日本病理学会誌 第77巻補冊，p216，1988

伴 慎一，齊藤 澄，石堂達也，大倉康男，中村恭一：異型度係数よりみた大腸絨毛状腫瘍の悪性度の検討．第47回日本癌学会総会記事，p358，1988

伴 慎一，中村恭一，齊藤 澄，石堂達也，大倉康男，尾辻真人：大腸病絨毛状腫瘍の病理組織学的検討．第48回日本癌学会総会記事，p234，1989

伴 慎一，齊藤 澄，千葉智樹，中村恭一：大腸上皮性腫瘍における DNA polymerase α 陽性細胞の陽性率と分布様式の検討．第49回日本癌学会総会

記事, p279, 1990

第1回日本消化器癌発生研究会(1989年9月, 東京)

厚生省がん研究班: 胃・腸管前がん病変としての異型性 dysplasia 上皮の細胞生物学的研究, 班会議(1989年7月, 東京)

稿を終わるにあたり, 本稿の御指導, 御校閲はもとより, 日頃の研究・病理診断に関して終始懇切なる御指導を賜りました筑波大学基礎医学系中村恭一教授に衷心より深く感謝致します。また, 御指導と御鞭達をいただきました同基礎医学系齊藤 澄講師および大学院の先輩諸兄に深謝致します。さらには, 本研究で使用した標本の作製に関し一方ならぬ御協力を賜りました研究協力部技官茂木高夫, 深谷貴子, 渡邊浩美の諸氏に深謝致します。

また, 貴重な症例の利用を御許しいただきました東京都がん検診センター, 南風クリニック, 鹿児島大学第二内科, 日立総合病院, 土浦協同病院, 取手協同病院, 大宮市医師会病院, 青梅市立病院, 甲府中央病院, 蜀協医科大学第一病理, 松山日赤病院の各施設に感謝の意を表します。